

# 卯 謹賀新年

## 持続可能な発展を目指して

十和田市長 小山田久



▲地域交流センター「とわふる」



▲志道館



▲まちなか交通広場



あけましておめでとうございます。  
市民の皆様におかれましては、新しい年を健やかに  
お迎えのことと、心からお喜び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、長引くコロナ禍  
に加え、電気料などをはじめとする物価高騰が市民  
生活や事業者に大きな影響を与える中、市民の  
命と生活を守るため、新型コロナウイルス感染症  
拡大防止対策や生活支援対策、経済支援対策に取  
り組んだ1年となりました。

また、災害の脅威に晒された年でもありました。  
5月9日に発生した法量地区の林野火災では、  
焼損面積が27.46haにも及ぶ大規模な災害となり  
ましたが、青森県、自衛隊などの関係機関、消防  
署員、消防団員の協力により、1人の死傷者も出  
すことなく無事、鎮火することができました。特  
に、ひたむきにそして、尊い使命感をもって消火  
活動に従事した延べ324人の消防団員の姿に本市  
の地域力を実感したところ です。

その他にも、8月には、朝方からの3時間の総雨  
量が110mmにも達する大雨により、建物半壊や、  
床下浸水などの住家被害が生じたほか、農作物にも  
大きな被害がもたらされました。本市では、迅速な  
応急対策を講じたところであり、引き続き災害復旧  
及び被災した農業者の支援に取り組んでまいりま  
すとともに、改めまして被害を受けられました皆様  
には謹んでお見舞いを申し上げます。

一方、明るい話題としては、中心市街地において、  
4月に市民の利便性の向上のため、バスやタクシー  
などの交通拠点である「まちなか交通広場」が、ま  
た9月には市民の余暇活動や活動発表の場として  
「地域交流センター『とわふる』」がオープンいた  
しました。どちらも多くの市民の皆様にご利用いた  
だいており、今後、さらなるまちなかのにぎわい創  
出につながるものと期待しております。加えて、4  
月に新しく開館いたしました志道館は、これまでよ  
り多くの団体の皆様にご利用いただいております。  
武道やスポーツ活動などを通じた人づくりや体づく  
りの場として活用されているものと考えております。

観光について申しますと、国の全国旅行支援な  
どの効果もあり、観光客が徐々にではありますが  
戻ってきたように感じております。また、入国制  
限が緩和されたことから、昨年10月には、久し  
ぶりに奥入瀬溪流や十和田湖などで外国人観光客  
の姿が見られるようになりました。

さらに、これまで休止していたイベントも感染  
状況を踏まえつつ再開できるようになり、感染防  
止対策を徹底したうえで3年ぶりに開催しまし  
た秋まつりには、多くの来場者が訪れ、市民の皆  
様がイベントを待ち望んでいたことを実感いたし  
ました。

こうした中、本年も引き続き、人口減少対策を  
はじめ、子育て支援や産業振興への対策、新型コ  
ロonavirus感染症や自然災害への対策、道路や  
公共施設の強靱化などへの対策、市民の利便性向  
上のためのデジタル技術を活用した各種事業の推  
進などにより、市民の皆様が不安なく安心して生  
活できるようさまざまな課題に取り組んでまいり  
ます。

また、本年8月には、青森県と共に実施する青森  
県総合防災訓練が、本市において予定されている  
ことから、改めて関係機関との連携を確認、強化す  
ることにより、自然災害などへの備えを新たにしま  
いたいと考えております。

今後も、将来都市像に掲げる「～わたしたちが創  
る～希望と活力あふれる十和田」の実現に向けて、  
「人口減少の克服」を本市の最重点課題とし、また、  
ESDGs（持続可能な開発目標）の理念を踏まえ、全  
ての人が生きがいを感じられるような社会のために  
将来にわたって持続的に発展できるよう、これまで以  
上に市民の皆様との連携・協働を図りながら、「住み  
たい」「住み続けたい」「訪れたい」と思える魅力  
あふれるまちなかの創出に邁進してまいりますので、  
皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し  
上げます。

年頭にあたり、まず何よりも新型コロナウイルス  
感染症の1日も早い収束と市民の皆様のご健勝と  
ご多幸を心からお祈り申し上げ、新年のごあいさつ  
といたします。